

## 令和4年度 平塚市総合計画市民ワークショップ

市民ワークショップは、次期総合計画を策定するに当たり、将来を担う中学生、高校生、大学生を含む幅広い市民の方から意見をいただき、市民の視点も踏まえたまちづくりを進める基礎資料とするために開催しました。

### 1 市民ワークショップ

#### (1) 市民応募

「令和4年度平塚市市民意識調査」にご協力いただいた市民の方（住民基本台帳から、3,000人を無作為抽出）を対象として、参加者を募り、50人から応募がありました。

応募人数が募集人数を大幅に超えたため、年齢、居住地、参加可能日数等のバランスを考慮した調整の結果、30人を参加者として決定しました。

#### (2) 実施概要

開催日時	実施内容
第1回市民ワークショップ 令和5年1月28日（土） 9時～11時	1．基調講演 題名：「平塚市をとりまく状況 ～将来像に向けて」 講師：東海大学政治経済学部 / サステナビリティ研究所 教授 大熊 一寛 氏 2．情報提供 (1) 平塚市の総合計画 (2) 将来の平塚市の人口予測 (3) 平塚市の税金の使われ方 (4) 令和4年度平塚市市民意識調査 結果概要【速報】
第2回市民ワークショップ 令和5年2月5日（日） 9時～12時	・「ひらつかの好きなところ・あまり好きではないところ」について、6つのグループに分かれてグループワークを実施 ・「将来どうなってほしいか」について、グループワークを実施
第3回市民ワークショップ 令和5年2月12日（日） 9時～12時	・「10年後 20年後にどんなひらつかを残したいか」について、「まちの姿」や「その具体的イメージ」をまとめた。
第4回市民ワークショップ 令和5年2月25日（土） 9時～12時	・これまでのワークショップを踏まえて作成した「10年、20年後に残したいまちの姿」のとりまとめ案について、各グループで意見交換し、結果を発表した。 ・各グループの意見を反映した修正案に対して、参加者全員で意見交換を行い、全体の意見を整理した完成版にまとめた。

#### (3) 実施結果

「10年後、20年後に残したいひらつか」について、現在ではなく未来、自分ではない大切な人（家族や友人）といった視点を持って、別紙「結果（完成版）」のとおり意見をまとめた。

詳細は同封した「令和4年度平塚市総合計画市民ワークショップ実施報告書」を御覧ください。

## 2 こどもワークショップ

### (1) 開催概要

市内在住の中高生 10 人（中学 1 年・ 8 人、中学 2 年・ 1 人、高校 1 年・ 1 人）を対象に、平塚市の人口の推移（今後の予測も含む）及び税金の使われ方について説明した後、「あなたが市長さんだったらどうしますか？」という設定で、限られた予算の中で市民からのお願いに対する市の対応について、話し合いを行った。

### (2) 実施結果

#### ア 全体の傾向

- ・ 少子高齢化が進む中で、「子どもや高齢者に関連する取組」が必要である。
- ・ 安全に暮らすために、「防災や防犯対策に関連する取組」が必要である。
- ・ 市で行うべき事業と個人で取り組むことを分ける必要がある。

#### イ 主な意見

- ・ 8 億円（グループワーク上の設定）の制限内で使い切るのではなく、貯金してはどうか。ただし、使い切らないと翌年になくなるのであれば、経済の活性化（税収増）に関する取組に使う。
- ・ 全ての事業を市が行う必要はない。個人で行う取組とそうでない取組を分けて考える。
- ・ 費用対効果を踏まえて話し合う必要がある。
- ・ 特定の人ではなく、多くの人が効果を実感できる取組が良い。
- ・ 保育所だけでは、生まれてくる子どもは増えないため、保育所に「子どもが生まれやすい機能」を設けられないか。
- ・ 参加者には、治安が悪いというイメージがなかったが、外からのイメージと乖離がある。
- ・ 将来の平塚市に必要なことを考えたときに、自分たち（子ども世代）へのメリットとなる取組だけでなく、将来に向けて働き手の確保する取組が必要である。
- ・ 平塚市の人口減少を減少させないために「現在の市民に長く住み続けてもらう」という視点が大切である。

#### ウ 参加者の感想

- ・ 平塚市の人口は知っていましたが、世代ごとの人口の割合は知らなかったので、20 才未満の人数に驚き、少子高齢化というのがとても深刻であると感じました。
- ・ グループワークを通して、少子高齢化が進むにつれて、起きるであろう問題を様々な角度から考えることができました。とくに、人口を増やすために、外から人を呼びこむのではなく、今住んでいる人たちが安心でき、出て行かせないようにするという考えが面白いと感じました。
- ・ 子どもから、おじいちゃん、おばあちゃんまで、安心、安全に暮らせて、幸せで、持続可能なまちにしたいです。
- ・ 安心、安全なまち、どんな人でも暮らしやすいような街にしたいと思った。また、良いまちにするために、若い人とかの意見がとおりやすいまちにしたいと思いました。

### (3) 報告書

市ホームページに掲載しているデータは、次の 2 次元バーコードからアクセスできます。



令和 4 年度こどもワークショップ報告書

### 3 大学生ワークショップ

#### (1) 開催概要

参加した大学生が社会経験を積むとともに、本市が今後まちづくりを進める基礎資料とするために開催した。東海大学政治経済学部経済学科の大熊一寛教授のゼミにおいて、大学3年生9人がデータを使い、平塚市の産業構造を分析した結果を発表、意見交換した。

- ・産業連関表やスカイラインチャートを用いて分析し、見えてくる課題などを話し合う。
- ・ゼミ生9人が2グループ（「ア 地域」と「イ 企業」）に分かれて発表する。

ア 地域：再生可能エネルギーの導入による地域経済への波及効果を分析

- ・太陽光発電事業が実施されたらどうなるか。経済にどのような影響があるか。
- ・他の自治体（小田原市）と比較する。

イ 企業：自動車産業がEV化した時の経済、環境への影響を分析

- ・自動車産業がEV化した場合、生産額や雇用への影響はどうか。
- ・市域での分析は困難なため、県単位で分析する。

#### (2) 実施結果

ア 地域

- ・太陽光発電の平塚市における地域経済波及効果

太陽光発電の導入による地域経済への影響は、直接効果だけでなく各部門への波及効果も期待できる。平塚市の太陽光発電の設備投資段階での経済波及効果と、運営段階（1年間当たり）で生じる波及効果はともに、小田原市を上回ると試算結果が出た。

- ・これは、平塚市の産業用電気機器やはん用機械産業は小田原市よりも自給率が高く、また生産量も多くなっていることが理由と考えられる。
- ・このことから平塚市の太陽光発電の導入には、高い将来性があると結論付けた。

イ 企業

- ・自動車産業がEV化した場合の影響（現在の産業構造が変わらないと仮定）

経済波及効果は、電気機械部門はプラス、自動車部品・同付属品が大きくマイナスとなり、トータルで見ると、減少幅が増加幅を上回ってマイナスとなる。

- ・EV化することで不要となる部品は、エンジン部品、駆動・伝達及び操縦部品、電装品・電子部品が挙げられる。
- ・神奈川県内で約1,700人の雇用が失われる可能性がある。

#### (3) 報告書

市ホームページに掲載しているデータは、次の2次元バーコードからアクセスできます。



令和4年度大学生ワークショップ報告書

### いつでもホッとするまち

- ・年齢や性別に関係なく交流ができる居場所がある
- ・赤ちゃんがニコニコしながら親子で散歩できている
- ・子どもがたくさん大切な思い出を作っている
- ・海、山、川などの豊かな自然にいつでも触れ合うことができる
- ・多くの人が平塚市を訪れている

### 平塚が平塚を潤しているまち

- ・新しい企業が創業し、老舗企業も時代に合わせて変革している
- ・若者が平塚で働きたいと思える場所がある
- ・若者、子育て世代、高齢者、障がい者など、誰もが理解し合い、働く場所がある
- ・仕事も趣味も満足できる環境が市内に揃っている
- ・食と再生可能エネルギーを地産地消している

### 自然と賑わいが共存するまち

- ・誰もが自然を大切にする気持ちを持っている
- ・海、山、川を活かしてスポーツ、レジャーなどの観光資源が充実できている
- ・活気ある商店街と市民が、魅力を発信してバズっている
- ・七夕などの文化が継承されている
- ・目で見て楽しめる、食べて楽しめるお店がある

### 心豊かな生活ができるまち

- ・通勤に時間をかけずに、余暇に使える時間が持っている
- ・市の文化や歴史を知る機会がある
- ・レジャーなどの趣味が実現できている
- ・コスパが良く、様々な暮らし方を選択することができる
- ・文化施設や総合公園、公民館等がより開放されて人が集まっている

**未来につなげる  
私たちが主役のひらつか**  
“協力・チャレンジして明るい未来へ”

### お互いを認め合い、 優しいまち

- ・人生を切れ目なく自助、共助、公助でサポートできている
- ・社会人、子ども、みんながいつまでも学ぶことができる
- ・市民、企業、市が将来に向けて協力し合って考えて行動している
- ・地域全員が子育てを応援して、余裕ができている
- ・異文化を受入れて、外国語を使って外国の人と話している
- ・誰にとっても過ごしやすいバリアフリーが実現されている

### 全員参加のコミュニケーションが 活発なまち

- ・時代、世代に合わせた伝達手段を使って、必要な情報が必要な時に手に入る
- ・新鮮な情報が人から人へ伝わっている
- ・市、市民、企業がまちの魅力を発信している
- ・市民の意見がまちづくりに反映、共有されている
- ・子どもたちが平塚市のことを好きになっている

### いのちを大切に、 安心・安全に暮らせるまち

- ・防災対策が充実している
- ・防犯対策が充実しており、治安が良い
- ・交通事故がなくなっている
- ・交通網や交通手段が改善され、「どこでもドア」がなくても便利に移動できている
- ・上下水道やごみ処理など、暮らしに密着した生活環境が充実している。